

ネパールでの新型コロナウイルス感染拡大の現状

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン
理事長 マナングダール マダーブ ナラエン

会員の皆様お元気でいらっしゃいますでしょうか。突然始まった新型コロナ感染拡大によって私たちの生活や活動は制限されました。幸いにも2月9日の総会は行うことができましたが、3月から5月まではミランクラブも活動を停止せざるを得ませんでした。理事会や会報印刷で使用していたさいたま市の市民活動サポートセンターも閉鎖となりました。日本国中自粛を余儀なくされましたが、やっと6月の理事会を開くことができ、皆様のもとに会報をお届けすることができます。このコロナによるネパールの現状や里子の現在、ダルマスタリ学校のことをお知らせします。

新型コロナウイルスはネパールではWHO（国際保健機構）が名付けた正式名のCOVID-19と呼ばれている。中国の武漢市から始まったこの病気は、ネパールで確認されたのは2月23日、その当時はそれほど深刻には考えられていなかったため国は対策を取らず、3月に帰国者からの感染が見つかるようになり3月24日から全国一斉に最初のロックダウンが始まった。

国境は閉鎖され地域の移動は緊急サービスと物流を除いて禁止された。ロックダウンは延長に延長を重ね、解除されることなく6月14日まで続いた。

6月27日時点で、ネパールの状況は以下の通りになる。

感染者 11,755 名
回復者 2,698 名
死亡者 27 名

ネパールでのロックダウンは罰則を伴う。しかし罰金はない。警察官、区の職員たちによる巡回で取り締まっている。

食料品、生活必需品の買物は朝5時から8時までの間で、家族のうち1人の外出が認められる。違反すると道路端に1時間立たされたり、さすまたの様なもので捕まえられて移動させられる。無断外出すると職務質問され、通院や急を要するもの以外は厳しく注意を受けるようである。



一部の役所を除き、会社、ホテル、飲食店、学校すべてが閉鎖、ロックダウン中には、政府から経済的に困窮している国民に以下の食糧など配布が行われた。4～5人家族用の量を参考までに載せる。

1. 米 25 kg =1,700 ルピー
2. 豆 5kg =750 ルピー
3. 食用油 2ℓ =320 ルピー
4. 塩 3pkts =75 ルピー
5. 小麦粉 5kg =300 ルピー
6. チューラ（干米） 3kg=240 ルピー
7. 砂糖 3kg =255 ルピー
8. 石鹼 5個 =150 ルピー
9. 洗濯石鹼 5個 =100 ルピー

日本政府が行っているような支援金配布はネパールにはなく、現物支給であ

る。ボランティア団体や地域の富裕層からも寄付されている。



政府は経済的な理由から6月14日にロックダウンを解除したが、完全なものではない。国内線、国際線は7月5日まで欠航を決めている。しかし海外からの帰国者のためにチャーター便は今まで飛ばしている。公共交通機関も止まり商店、学校などはまだ再開されていない。

感染拡大はインド国境に近いネパール南部で広がっている。最近では一日で600名以上の感染確認の日もあり、学校再開の目途は立っていない。

ロックダウン解除後の取り決めとして車やバイクでの外出時の注意がある。ナンバーによる偶数日、奇数日の外出許可や乗車人数の制限、税金の減額予定、出社人数の制限を設けた。暫くの間、伝統行事、祭り、コンサートなど、人が多く集まるものは完全に停止した。

しかし途中になっていた道路工事や空港整備は行っており、ロックダウンで人や車がなくなり、工事ははかどるようだ。排気ガスや埃などによる環境汚染が解消されカトマンズからはヒマラヤの山々や

エベレスト山までもが鮮明に見える日もあったようだ。



政府は感染拡大防止のポスターを作製国民に周知徹底している。(下記参照)



ミランクラブの里子たち

里子たちから感染の知らせがないことは幸いです。全ての再開の一番最後になる学校再開は、始めは高学年からになる見込みだが、今現在見通しは立っていない。教育省はコロナ拡大の減少を見据えてから再開する予定と発表している。

ミランクラブネパールによるとロックダウン中、政府は経済的に困っている家庭に食糧を支給している。それは里子たちも対象になっていて受け取っている。特に、地方の里子たちには貴重なものとなっている。

ミランクラブからの奨学金支給に関しては、ロックダウンを開始すると発表があったときに、里子たちを呼んで配布した。しかし、ロックダウン中は銀行も閉まって里子たちも外出できないため中断していた。最近ようやく支給再開を始めることができている。

ミラダルマスタリ学校

今年のSEE（全国統一高等学校試験）は3月19日から30日までの予定だった。しかし政府は試験会場に何日にも渡り大勢が集まることからコロナ感染拡大を恐れ、試験を中止した。ミラダルマスタリ学校からは24名が受験予定だった。ダルマスタリ学校、他校に在学の里子たちは25名が受験予定だった。

ダルマスタリ学校からの受験生は寄宿舎に寝泊まりして受験勉強に励んでいた。先生方も指導のために寝食を共にしていた。しかしロックダウンが始まり学校だけではなく寄宿舎も閉鎖になった。

教育省はSEEに代わり学校内の成績で評価をつけると発表した。学校から3名の代表の先生を選び地域の教育委員会に生徒の成績を送る。教育委員会は地域

の該当者の成績をまとめ、教育省に送る。後日SEEとしての評価が送られてくることになっている。

学校の閉鎖により授業料、寄宿料、食堂での飲食の収入はなくなり、先生方は自宅待機となった。唯一学校に残ったのはガードマン、掃除担当の2人だけとなった。自粛中ネパールでは私立学校の教員へ給料を払っていないところが殆どだ。ダルマスタリ学校ではスポーツ施設充実のためにプールしてあった資金を崩し基本給だけは払っている。学校に残った2人には今まで通りの支払いがされている。

教育省からは無料でONLINEクラスを行うよう要請があった。ネパール私立学校協会はONLINEで授業を行えるようZOOMなどを準備している。公立学校ではテレビ、ラジオを用意している。しかしインターネット環境が整っていなかったり、初めての試みだったりもしてスタートに時間を取られている。

ダルマスタリ学校では生徒が自分の都合のよい時間に勉強できるよう、学校のホームページに先生から課題や宿題を掲載している。生徒は親のパソコンを使ったり、知り合いに借りたりして先生にメールで送り返し、勉強を続けている。

また学校は6月21日から8~10年生、高学年の生徒たちにZOOMを使って授業を行っている。コンピュータの先生は希望する先生方へ最新のONLINEに関しての講習も行っている。

先生方は今まで順番に定期的に学校へは来ており、今はスミトラを中心に先生方で図書室の整備を行っている。学校再開へ向けての準備も行っている。

コロナ感染拡大で私たちは新しい生活様式を取り入れざるをえません。子供たちへ教育格差が生じないよう、これを機により良き制度を整えるべきと思います。